

ICT 機器の多様な活用による 教育の推進

地域の
特色ある
活動

長野県下伊那郡喬木村教育委員会

1 はじめに

喬木村は長野県の南部、伊那谷を南北に流れる天竜川の東岸に位置し、人口は6,000人弱です。村内には保育園3園、小学校は喬木第一小学校と第二小学校の2校があり、児童は第一小学校に隣接する喬木中学校に進学します。各自治体同様、少子高齢化が深刻な課題です。特に第二小学校では児童数の減少が急激に進んでいます。



2 喬木村と ICT 教育

本村が ICT 教育に関する環境整備の施策に取り組み始めたきっかけは、「小規模校の統廃合問題」の解決でした。地域の活力となる学校を維持させたいという住民の切実な声と、小規模校が抱える教育課題の解消は、最重要ミッションです。そこで、平成27年度に文部科学省「人口減少社会における ICT の活用による教育の質の維持向上に係る実証事業」の採択を受け、教育環境の整備を行い、小学校において「遠隔合同授業」を行いました。実証事業終了後も、村独自の体制で遠隔学習に取り組み、村内2校だけでなく、他県の学校や海外の学校とも行ってきました。

また、平成30年度には文部科学省委託事業「次世代の教育情報化推進事業」の採択を受け、教科教育における ICT の効果的な活

用について実証研究を行ってきました。

現在は、GIGA スクール構想で一人一台のタブレットが配布され、日常的な授業はもちろん、持ち帰り学習や児童会・生徒会活動と幅広く活用しているところです。

3 利活用を支える仕組み

村としての人的な支援について簡単に紹介します。本村では、教育委員会に教育 CIO 補佐という役職を設け、教育 ICT 推進を専門とした職員を配置しています。教育 CIO 補佐は、ICT の推進計画の策定から学校での ICT 活用サポートを複合的に担っています。

さらに非常勤の ICT 支援員を2名配置しており、実質的に1校1名の ICT 支援員のもと、学校の ICT 利活用を支えています。

教育 CIO 補佐と1名の ICT 支援員は教員免許を有しており、学校教育について理解があるため、機器操作だけではなく教材の活用においても支援できる人材です。各学校の先生方も不安に思うことについては身近で質問できると、とても感謝されております。

授業に関するだけでなく、関係各所（大学や事業者等）との連携調整など「教育における ICT 活用」の専門家として大いに機能しております。

4 新型コロナウイルス感染症禍での学習

新型コロナウイルス感染症の拡大で、喬木村小中学校では1月に5日間、臨時休業を余

儀なくされました。予想される事態に備えて、各学校のオンライン授業実施の準備を進めました。

オンライン学習の手引きを作成し、一方通行の講義的な授業にならないよう、使えるサービスや工夫をまとめ配信しました。実際の授業の様子をいくつか紹介します。

手元を拡大して丁寧なノート指導

先生のタブレットを手元に向けることで、ノートの書き取りの様子を拡大提示し、離れた場所においても丁寧にノートの取り方を指導することができました。



ブレイクアウトルームによる協働的な学び

ブレイクアウトルームという機能を使い、オンライン授業でもグループ活動を実施しました。子どもをそれぞれの部屋に分け、話し合い活動を行うことで、協働的な学びを実現できました。



5 推進過程で出てきた課題

本村では、GIGA スクール構想が始まった当初から、家庭へのタブレット持ち帰りを実施しています。持ち帰りに際して、端末の安全な取り扱いやリテラシーの指導を行い、有害サイトへのフィルタリングも設定し、安全

対策をとりました。

しかし、家庭での不注意による破損も少なくない数発生しました。今後、保険による補償や、スムーズな修理をどう行っていくのか、再検討の必要があります。

また、遊び感覚でフィルタリングを解除してしまうなど、ITリテラシー上の指導が必要な案件もありました。子どものICTスキルが向上している裏返しであると捉えつつ、学校と連携し、「できること」と「やってよいこと」の線引きを指導し、よりよい活用につなげていきました。

臨時休業中のオンライン授業では、村から貸し出したモバイルルーターの通信容量をオーバーしてしまう問題が起きました。

また、学校が実施したオンライン授業の事後アンケートでは、長い時間使っていると「目が痛い」「首・肩がこる」「頭が痛い」といった健康上の問題も出てきました。

通常の6時間授業をオンラインで行えたことは、これまでICTを日常的に活用してきたことの成果であり、大変素晴らしいことでしたが、それを支えるネットワーク環境の見直しや、子どもの健康面に配慮した取り組みが必要であると気づかされました。

6 終わりに

喬木村ではICT機器の活用による授業改善に取り組んでいます。信州大学教育学部と連携し、村内3校で学期に1回の校内研修会を実施し、そちらを外部にも公開する予定です。是非一度、ご来村ください。

結びに、ICT教育に力を入れているのはもちろんですが、教育の両輪として「心豊かな人づくり」にも力を入れ日々教育の推進をしているところです。



教育長
丸山 貢弘